

弓道部

きっかけは Change!!

部員 多田宏一郎

入部のきっかけは、コースで仲良くなった友達の一言。入るまでは簡単そうに見えるけど、実際にやってみると「意外と大変なクラブだなあ」というのが入部してすぐの感想でした。大きな大会で、まさかの新人起用。私の名が告げられた時、私の心は嬉しさと緊張の二つで一杯になってしまいました。今思えば、出させてくれた先輩も気が気ではなかったと思います。

「あつ、あの時こうしておけばよかった」という考えから、「よし、次はこうやって挑戦してみよう」という Change が大切ですね。未来はこれから自分たちが作り上げるもの。だからこそ、皆さんもぜひ一度考えてみてください。今年の後輩も入り、また新たな出会いが待っていることに喜びを感じています。緊張で胸が一杯だった私、悔しくて涙を隠そうと必死だった私を支えてくれた多くの先輩方のように、後輩にとつて緑の下の力持ちのような先輩でいたいと思っています。



部員たち

クラブ活動でも勉強でも、今まで挫折を何度も経験したことと思います。「一難去ってまた一難」、これからはあまりの辛さに、もう全てを投げ出したいと思うことすら出てくるはず。そんな時は、少し自分の胸に手を置いて、明日の自分と相談してみようでしょうか。私自身、数回の大学受験を経験してしまい、そのたびに自分自身の無力さを情けなく感じていました。もちろん今も、勉強や弓道など、いろんなことで悩んだり考えたりします。しかし、そんな時はいつもちょっと先の未来の自分を考えるようにしています。過去を振り返っても、歴史が普遍的なものと同じで、決して変えることはでき

地歌 箏曲部

未知の領域へ

部長 的場雄樹

最近あなたは、和楽器に触れたり、音色を聞いたりしましたか？地歌箏曲部は、ふだんなかなか触れる機会が少なく、箏や三味線、尺八などの和楽器演奏を中心に活動しています。和楽器や三味線と聞くと「何か難しいな」「習いづらそうだな」というイメージがあるかも知れません。しかし、和楽器というものは非常にシンプルで、他の楽器にはない独特の音色を奏でてくれます。確かにロックやポップスなどの音楽も面白いですが、たまには日本古来の音楽を楽しむのも心地良いですよ。

では、具体的にどのような活動をしているのかと言うと、基本的には大学祭である「輝覚祭」での演奏会を目標に、毎週お稽古に励んでいます。また今年には「積極的に舞台上に立とう！」という決意のもと、さまざまな場所での演奏活動に取り組んでいきたいと思っています。すでに1月は、介護実習でお世話になっている大淀養護学校での新年会に出演したり、奈良のイングリッシュ・バーにおいて、部員全員で企画・運営し邦楽ライブを行ったりしました。今後は、小学校での邦楽体験授業にも参加させていただく予定です。

さて、新入生の皆さん、大学という未知の領域に対してどのような思いを抱いているでしょうか？楽しみや不安が入り混じった、複雑な気持ちかも知れません。人は、自分とは異なるものと接触する時、多かれ少なかれ不安を感じるものです。私たちも、先ほど述べた「バー」での邦楽ライブという未知の領域に足を踏み入れる際、期待とともに不安も感じていました。しかし、「1人でも多くの人に自分の音が届けたい」という強い目標を持ち続けていたので、不安に負けることなく演奏することができました。ですから皆さんも、新しい一歩を踏み出す時、「自分はこんなことをしたい!!」という目標を強く持ち、不安に打ち勝ってください。それを乗り越えた時の達成感、一生忘れられないものになると思います。



大学祭にて

課外活動

硬式 テニス部

チームとして

主将 藤山和也

私たち硬式テニス部は、現在男子8名、女子4名で活動しています。私たちの部活には、大学に入る前からテニスをしてきた人や、大学に入ってからテニスを始めた人などさまざまな人がいます。そんな中、私たちはみんな一緒に同じコートで練習し、お互いにアドバイスをし合いながら、実力の向上を目指しています。

私たちの部活では、主に二つのことを大切にしています。まず一つ目は、テニスを楽しむことです。何をやるにしてもいやいやしていたのでは実力はつきません。自分の実力を向上させる一番のコツは楽しむことだと思います。楽しく自分を磨くことが私たちのモットーです。二つ目は、チームとしての意識を大切にすることです。テニスは、シングルの1人、ダブルスは2人で試合を行うので、団体競技というよりは個人競技と言えますが、私たちはそれぞれ、チームとしての意識を大切にしたいと考えています。テニスの技術において、得意としているものと苦手としているものは1人1人違います。従って、それらの練習は1人ではできず、一緒に練習する仲間が必要です。また、競い



テニスコートにて

合う仲間や支えてくれる仲間がいるから強くなることができるし、個人競技であるからこそ、そのような仲間との存在はとても大きいのです。だから私たちは、お互いに助け合うチームとしての意識を大切にしています。テニスは難しい競技です。しかしその分、今までできなかったことができるようになった時の達成感はとても大きく、やりがいのあるスポーツです。大学に入ってからでもテニスを続けたい人だけでなく、大学から始めたい人、思っている人も大歓迎です。さあ、テニスをして大学生活を楽しく、そして有意義に過ごしませんか。

華道部

花が教えてくれたこと

部長 今井美里

私たち華道部は、毎週水曜日に学外から先生をお招きして活動しています。

華道と聞くと、堅苦しい印象を持たれる方が多いと思いますが、私たちは流派に関係なく、誰でも気軽に生けることを活動方針としています。昨年から留学生2人を新たに加え、他国の文化の話に花を咲かせながら、さらに楽しく活動しています。特に留学生から学ぶことが多々あり、アゼルバイジャン出身の彼女は、花を通していろいろな悲しい国の話を聞かせてくれました。花を生けることは、ただ目で楽しむだけでなく、世界中の人の心を和ませると気付かされました。

また毎年、大学祭期間中には生け花の展示を行っております。昨年の大学祭では、10種類の花器に30種類近くの花や木を、思い思いにみんなが生けました。ふだんの活動でも、色とりどりの花が豊かな香りと共に、私たちに季節の移り変わりを教えてくれます。他の多くの人にも季節を感じてもらいたくて、最近ではお稽古で余った花を学内に飾るなどしています。

慣れない部長という役割に就いた時、何でも一人でやろうと気が負い、挫けそうになったことがありました。それでも諦めずに頑張つて来られたのは、先生や部員の方々、先輩方の支え、また展示を見に来られた方の温かい応援の言葉があったからです。新入生の皆さんには、慣れない生活に不安を感じたり、挫けそうになったりすることがあるかもしれませんが、そんな時は立ち止まって辺りを見渡してみてください。頼りなげに道端に咲く小さな花も、互いに支え合い懸命に生きています。決して一人ではなく、きつとあなたも誰かに支えられて生きていくのですから。



お稽古風景

部員の作品